
白百合峠

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白百合峠

【Nコード】

N7810A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

昔、峠に住む白百合の女が人々を惑わし心を奪っていた。白百合伝説は二百年の時を経て昇華される。

夏の空に揺れるのは、真っ白な百合の花。

夜鶴のように澄ました花は、艶やかに魅了する。

峠を越えるか、越えないかの所に、バス停があった。

錆びたトタンを屋根がわりにして、壊れた青いベンチがある。

古くから峠を越える者達が休む所に、ちょうどバス停が作られた。

それから月日が流れた今も、人が休むために立ち寄ることも少なくなかった。

バスはとつくに廃線になってしまったが、その存在は変わることはない。

ひっそりと佇むバス停の裏には、小さな祠が建てられて地蔵様が奉られている。

そのまわりには天然の百合の花が咲き誇っていた。

ある日、近くの村の少年が峠を下っている時に、百合のように白い着物を着た女に出会った。

「あんだ、何処に行きなさる？」

女が尋ねると、少年は。

「母の所に行く」

と答えた。

峠を下った先には、少年の母の居る病院があった。

少年は、一人で峠を越えて見舞いに來たのだ。

「お前の母は病気か？」

と女は聞いた。

「母は病気だ」

と少年は答えた。

女はうなづくと、

「お前は、いつ戻ってくる」

とさらに聞く。

少年は

「指を百本折る頃に、私は戻ってくるだろう」

と嘘をついた。

女は

「百年か」

と言うと

「きつとか？」

と念をおす

「きつとだ。」

と少年は言った。

そんな伝説があるのも、地域ならではの、そして今、僕はその祠に
来ている。

残念ながら、バス停はほとんど解体されて、骨組みしか残っていない。
い。

峠もずいぶんと整備されて、今はラクラク遊歩道なんて名前がつい
ている。

どうゆうわけか、ここの百合は百年に一度しか咲かない。

伝説が先にあつたのか、百合が先にあつたのかは分からないが、百
年の周期に此处に来れたのはラッキーだった。

その百合の白さは、突き刺すような太陽に巧く隠れてひっそり咲いていた。

五本か、話に聞いていたよりは少ない。

気候が変わったせいなのか、百合の数は減っている。

実際にはないはずのベンチを想像してみた。

そして、百合の化身である彼女。

「百年も待っているのですか」

「はい」

どこからか返事が聞こえる。

「なぜ、少年の嘘に気付かないフリをするんです」

「だってその方が、あなたと会った時の喜びが増すでしょう」

彼女らしい素直な答え。

「生きているうちに行けなくて残念だ。私はすっかり忘れていた。」

「だから二百年も遅刻したんですか？」

責めるわけではなく、純粹に楽しんでいるのだろっ。

「いや、それも違うな。自信がなかった、君は綺麗だったし、僕は

少年だった。」

「そんなことを？あなたは美しい心をしていたわ。だから、呼びとめて心を縛らなくてはと思ったの」

「そうか。」

今はなぜか、何もかも話せる。終わってしまったから、肉体と別れを告げたから。

「私はそれまで、何人もの心を盗んで骨抜きにしてきました。」

彼女は言う。

僕は知っていたと言っべきか。

「しかし、あなたは私の色香よりも母への愛を貫いた。そしてあなたは、逆に私の心を捉えて、百年の呪縛を与えた。」

「二百年か。長かっただろう。」

「ええ、でもあなたは来た。それが嬉しい。」

百合の花は驚くほど白い。

「どうする？僕は生まれ変わるための旅に出るが…一緒に来てはくれないか？」

「私があなたと同じ所に行けると思うの？」

「思う。だって僕は百年も遅刻したんだ。それだけで地獄に行ける理由になる」

「変わった人。地獄に行つてまで生まれ変わりたいなんて。二百年待ったかいがあつたわ。」

「さあ」

美しい白百合の花は首が折れたように地面にポトリと落ちた。紅漣の炎が百合を焼く。

「百年後、またこの峠で会いましょう」

「今度は、僕が君を待とう。」

僕達は別々の峠へ旅だった。しかし、その向こうにはこの場所がある。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7810a/>

白百合峠

2010年10月10日22時00分発行